

地場企業の経営動向調査

(平成19年度 第2・四半期)

平成19年11月 1日

 福岡商工会議所

事業推進部 経済振興グループ

TEL 092-441-1118

調査目的

福岡市内地場企業（一部福岡市近郊を含む）の景況及び経営動向を把握すると同時に、これらの情報を企業へ提供し、企業経営の参考に資するものである。

調査対象

当所会員企業を対象とし1,500社を任意抽出したもので、対象企業の内訳は中小企業 1,425社（構成比率95.0%）、大企業75社（構成比率5.0%）により構成されている。

回答した企業数は 651社、回答率 43.4%となっており、回答企業の内訳は、中小企業608社（構成比率93.4%）、大企業43社（構成比率6.6%）となっている。

中小企業の範囲は中小企業基本法の定義に基づく。

調査要領

四半期毎にアンケート用紙を郵送、前年同期比の回答を求めるもので、今回は平成19年7～9月期の実績、及び平成19年10～12月期の予想について、平成19年9月末時点で調査した。

調査内容

DI値を集計（DI=「良いとする回答割合」-「悪いとする回答割合」）

DI・・・ Diffusion Index（景気動向指数）の略

景気・経営動向調査

- 1．自社・業界の景況
- 2．生産額、売上額、完成工事高
- 3．原材料・製（商）品仕入価格
- 4．受注価格、販売価格
- 5．製（商）品在庫
- 6．営業利益
- 7．売掛期間
- 8．資金繰り
- 9．100万円以上の新規借入

平成19年度 第2・四半期

調査対象企業数及び回収結果

規模別	対象数	回答数	回答率	回答結果の構成比
全業種	1,500	651	43.4%	
中小企業	1,425	608	42.7%	93.4%
大企業	75	43	57.3%	6.6%

業種別	対象数	回答数	回答率	回答結果の構成比
全業種	1,500	651	43.4%	
建設業	314	145	46.2%	22.3%
土木建設業	114	55	48.2%	8.4%
建設付帯工事業	79	46	58.2%	7.1%
電気・管工事業	121	44	36.4%	6.8%
製造業	221	106	48.0%	16.3%
食料品製造業	46	25	54.3%	3.8%
繊維製品製造業	13	6	46.2%	0.9%
建材・木・紙製品製造業	7	5	71.4%	0.8%
印刷・製本業	44	14	31.8%	2.2%
窯業・土石製品製造業	8	4	50.0%	2.8%
金属製品製造業	23	15	65.2%	2.3%
一般機械器具製造業	20	11	55.0%	1.7%
電気機械器具製造業	24	16	66.7%	2.5%
その他製造業	36	10	27.8%	1.5%
卸売業	333	156	46.8%	24.0%
食料品卸売業	63	25	39.7%	3.8%
繊維製品卸売業	65	31	47.7%	4.8%
建材・住宅機器卸売業	60	34	56.7%	5.2%
紙・文具・事務機卸売業	6	3	50.0%	0.5%
金属・鋼材卸売業	2	2	100.0%	0.3%
一般機械器具卸売業	32	15	46.9%	2.3%
電気機械器具卸売業	13	8	61.5%	1.2%
石油・化学製品卸売業	12	8	66.7%	1.2%
ゴム・皮革製品卸売業	2	2	100.0%	0.3%
その他卸売業	78	28	35.9%	4.3%
小売業	210	73	34.8%	11.2%
食料品小売業	44	16	36.4%	2.5%
衣料品・身の回り品卸売業	45	9	20.0%	1.4%
石油・化学製品小売業	25	7	28.0%	1.1%
車両運搬具小売業	14	5	35.7%	0.8%
家電・厨房器具小売業	10	7	70.0%	1.1%
百貨店・セルフ店	11	4	36.4%	0.6%
その他小売業	61	25	41.0%	3.8%
運輸・倉庫業	62	30	48.4%	4.6%
旅客運送業	16	11	68.8%	1.7%
貨物運送・倉庫業	46	19	41.3%	2.9%
サービス業	360	141	39.2%	21.6%
情報処理サービス業	51	25	49.0%	3.6%
その他事務所サービス業	216	74	34.3%	11.4%
ホテル・旅館・飲食業	55	22	40.0%	3.4%
その他の個人サービス業	38	20	52.6%	3.1%

「 福商 ・ 経営動向調査 」 調査結果

景況概況 (DI 値の動き)

1. 自社業況は、今期 28.2 となり、前期との比較ではマイナス 11.2 ポイントと 3 期連続での悪化となった。
業種別に対前期比をみると、運輸・倉庫業がマイナス 23.5 ポイント(前期 DI 3.2)、小売業がマイナス 22.9 ポイント(同 21.0)、製造業マイナス 15.2 ポイント(同 13.0)、サービス業マイナス 10.1 ポイント(同 5.6)、建設業マイナス 7.1 ポイント(同 23.3)、卸売業マイナス 6.3 ポイント(同 24.4)と全業種で悪化となった。
小売業では、前期 6 期ぶりにマイナス幅が縮小したものの、今期は反転し、マイナス幅が大幅に拡大し、全業種中最も悪い DI 値(- 43.9)となった。
次四半期(H19 年 10~12 月)の全業種予測 DI 値は 13.8(今期比プラス 14.4 ポイント)となっており、改善が予測されている。
2. 業界の景気動向は、今期 40.0 と前期との比較ではマイナス 23.0 ポイントと 3 期連続して悪化した。
次四半期についてはプラス 10.6 ポイントの改善が予測されている。
3. 生産額、売上高、完成工事高は、今期 15.3 と前期との比較ではマイナス 5.1 ポイントとなり、2 期ぶりに悪化した。
次四半期については 11.2 とプラス 4.1 ポイントの改善が予測されている。
4. 原材料、製(商)品仕入価格は、今期 46.9 と前期との比較ではプラス 4.2 ポイント上昇した。
次四半期については 41.7 と今期比マイナス 5.2 ポイントの下落予測となっている。
5. 受注価格、販売価格は、今期 17.2 と前期との比較ではマイナス 4.2 ポイントの悪化となっている。
次四半期については 9.4 とプラス 7.8 ポイントの改善が予測されている。
6. 営業利益は、今期 36.4 と前期との比較ではマイナス 13.5 ポイントの悪化となっている。
次四半期については 27.5 とプラス 8.9 ポイントの改善が予測されている。
7. 売上増加の理由は、「受注、需要の増加」55.5%、「得意先開拓・客数の増加」41.2%に集中している。
一方で減少した理由としては、「受注、需要の減少」72.1%、「得意先開拓・客数の減少」38.8%、「客単価の低下」34.7%の順となっている。

8 . 当面の経営上の問題点としては、「受注、販売競争の激化」59.3%、「売上高、生産額、工事高の伸び悩み」51.9%、「営業利益の低下」44.9%の3項目へ指摘が集中している。

業種別では、建設業の「官公需要の停滞」46.9%、「原材料高、入手難」31.7%。製造業の「原材料高、入手難」48.1%、「販売価格への転嫁難」34.9%。卸売業の「販売価格への転嫁難」34.6%。小売業の「同業者、類似店、大型店の進出」39.7%、「販売価格へ転換難」31.5%。運輸・倉庫業の「人材難、求人難、定着性の悪化」56.7%、「経費の増加」33.3%。サービス業の「人材難、求人難、定着性の悪化」37.6%が挙げられ、いずれも3割を超す指摘となっている。

参考指標

日経平均株価	16,785.69 円	(平成 19 年 9 月 28 日 終値)
対米ドル円相場	116.43 円	(平成 19 年 9 月 28 日)
対ユーロ円相場	164.88 円	(平成 19 年 9 月 28 日)
原油価格 (WTI)	US\$ 83.42/バレル	(平成 19 年 9 月 28 日 終値)

景気判断

10月の月例経済報告(内閣府)では景気の基調判断を「景気は、このところ一部に弱さがみられるものの、回復している」とし、前月の判断を据え置いた。

併せて「企業収益は、改善している。設備投資は、このところ弱い動きがみられるものの、基調として増加している。雇用情勢は、厳しさが残るものの、着実に改善している。個人消費は、おおむね横ばいとなっている。輸出は、緩やかに増加している。生産は、持ち直している。先行きについては、企業部門の好調さが持続し、これが家計部門へ波及し国内民間需要に支えられた景気回復が続くと見込まれる。一方、アメリカ経済や原油価格の動向が内外経済に与える影響等には留意する必要がある。」としている。

当所の今四半期(平成19年7~9月)調査において、地場企業の自社業況判断指数(DI値=前年同期と比較し「良くなった」とする回答割合から「悪くなった」とする回答割合を引いた数値)の全業種平均DI値は28.2で前期比マイナス11.2ポイントと3期連続での悪化となった。

【DI値の推移】

H16 第3 期	H16 第4 期	H17 第1 期	H17 第2 期	H17 第3 期	H17 第4 期	H18 第1 期	H18 第2 期	H18 第3 期	H18 第4 期	H19 第1 期	H19 第2 期
23.5	25.7	17.7	17.3	3.0	10.4	17.1	17.4	11.2	16.9	17.0	28.2

まとめ

今期の自社業況については、3期連続しての悪化となり、そのDI値は、平成15年度第3・四半期(平成15年10~12月)の調査時点(DI値28.0)と同水準の数値となった。また、業種別においても全業種(6業種)において悪化となった。

次四半期の予測DI値は13.8となっており、4期ぶりに改善(今期比プラス14.4ポイント)が予測されている。

DI値は(平成3年度第2・四半期以来)65期連続でマイナス値となった。

全般的に「原材料の値上り分を販売価格へ転嫁できず、収益が悪化している。」「売上高は増加したものの、それを超える経費増となっており、減益となっている。」といった声が目立っており、原油・原材料価

格の上昇分を価格転嫁できず板ばさみの状況にあり、数多くの企業で景況感が悪化していることを示す結果となった。

また、調査対象 9 割超を占めている中小企業においては、前期比マックス 11.0 ポイント悪化し DI 値は 28.8、大企業においても前期比マックス 14.1 ポイント悪化し DI 値は 20.9 となっており、景気回復が報じられてはいるものの、こと地方においては、未だ回復には至っていない。

業種別では、全業種（6 業種）において業況感の悪化がみられ、その中でも、小売業では、前期 6 期ぶりにマックス幅が縮小したものの、今期は反転し、マックス幅が大幅に拡大し、全業種中最も悪い DI 値（43.9）となった。小売業では「8 月、9 月の残暑の影響もあり、客足が伸びず、売上が伸び悩んだ」との声も数多く上がっており、この先の見通しがつきにくく、消費マインドを高めるには至っていない状況にある。

回答企業の主なコメントより(抜粋)

官公庁・民間工事とも受注競争が激化しており、又仕入価格の高騰もあり、利益確保が非常に厳しい状況下にある。(建設)

原材料の値上げ分を販売価格へ転嫁できず、収益が悪化している。(製造)

食の安心安全、トレーサビリティへの対応が求められており、又中国製品への不信、不買問題が起こっている。(卸売)

消費者の購買立地の移動変化(商店街から超大型店舗)が著しい。このため、中小の小売店舗の衰退が著しく、歯止めがかからない。(卸売)

景気は上昇しつつあるとはいえ、消費マインドを高めるには至っていない。

小売業では、競争激化・消費の 2 極化等お客様のニーズの多様化に全て応えるのは難しくなっている。(小売)

売上高は前年に比べ 1 桁増となっているが、それを超える経費増となっており、営業・経常利益とも前年に比べ、減益となっている。(運輸)

インターネットの販売が引き続き好調でマーケットが拡大し、取扱高も順調に伸びてきている。店舗販売は伸び悩んでいる。(サービス)

人材の不足、労働力の低下。(サービス)

1. 自社・業界の景況

《自社景況は3期連続して悪化、次期予測は反転し改善へ》

今四半期（H19年7～9月）の地場企業の景況判断指数（DI値）は、全業種平均で「良くなった」と回答した企業割合は17.2%（前期比-5.5ポイント）、「悪くなった」と回答した企業割合は45.4%（前期比-5.7ポイント）、「横ばい」と回答した企業割合は37.0%（前期比-0.4ポイント）となった。
DI値は 28.2（前期DI 17.0）となり、前期比で-11.2ポイント悪化した。

業種別に対前期比でDI値を見ると、運輸・倉庫業-23.5ポイント（前期DI 3.2）、小売業-22.9ポイント（同 21.0）、製造業-15.2ポイント（同 13.0）、サービス業-10.1ポイント（同 5.6）、建設業-7.1ポイント（同 23.3）、卸売業-6.3ポイント（同 24.4）と全産業でそれぞれ悪化となった。

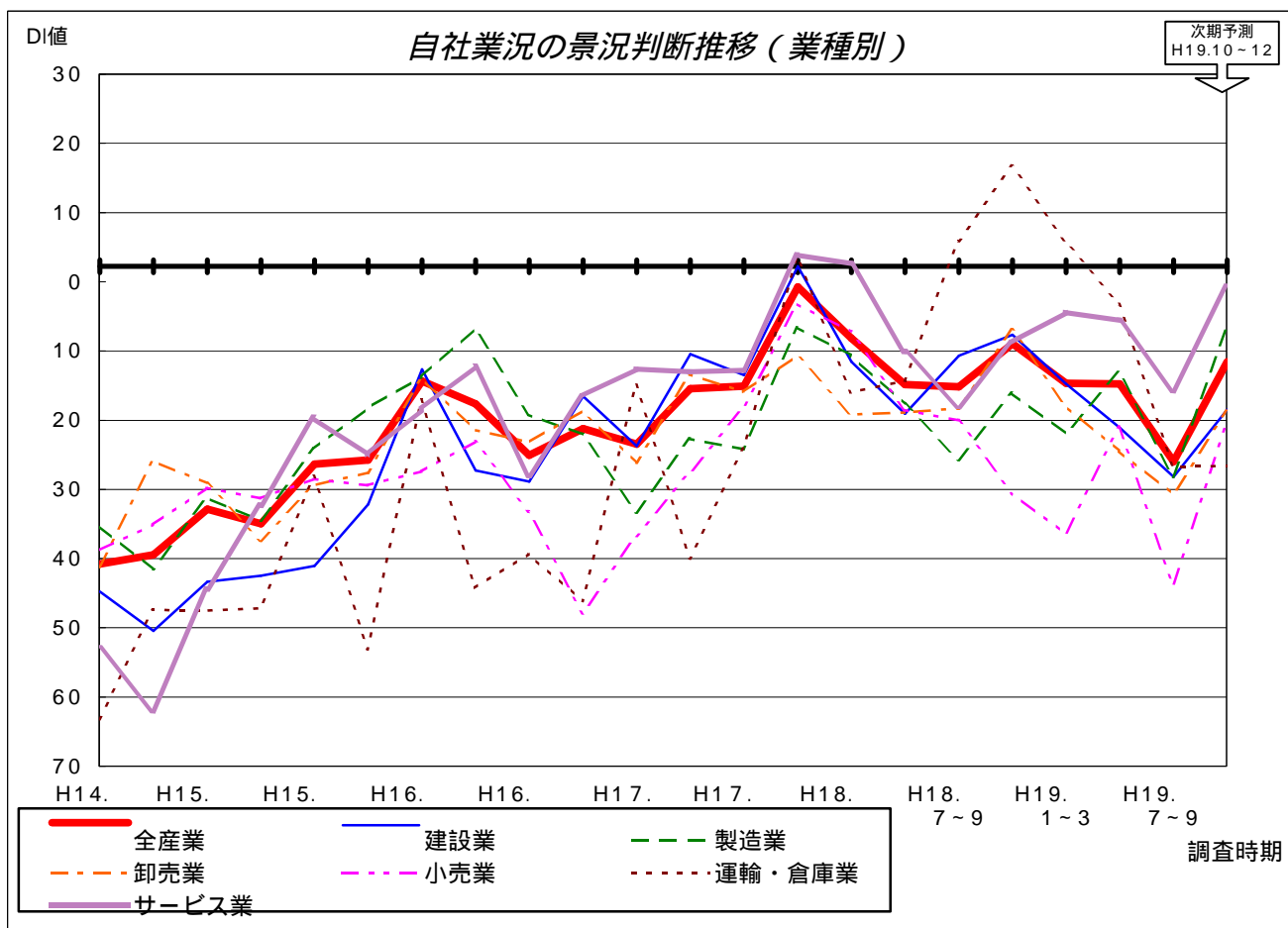
また、規模別のDI値においても、中小企業は前期比-11.0ポイント（前期DI 17.8）、大企業では-14.1ポイント（同 6.8）の悪化となった。

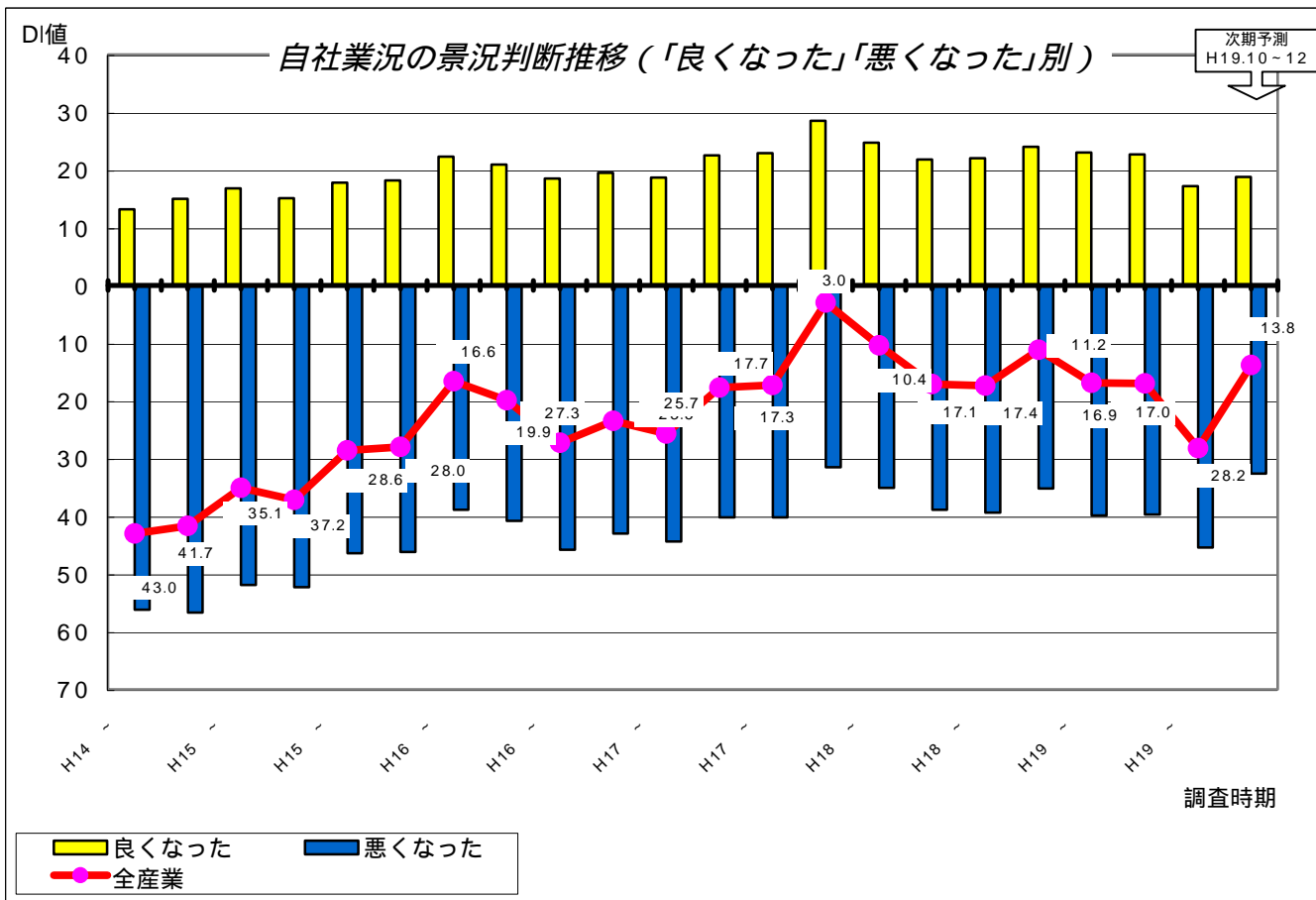
次四半期（H19年10～12月）の全業種予測DI値は 13.8（今期比+14.4ポイント）となっており、改善が見込まれている。

《自社業況の総合判断（前年同期と比較して）》

（単位 %）

	今四半期（19年7～9月期）実績							次四半期（19年10～12月期）予測						
	非常に良くなった	やや良くなった	横ばい	やや悪くなった	非常に悪くなった	未記入	D値	非常に良くなる	やや良くなる	横ばい	やや悪くなる	非常に悪くなる	未記入	D値
全業種	1.7	15.5	37.0	37.3	8.1	0.3	28.2	0.2	18.6	45.5	28.0	4.6	3.2	13.8
建設業	0.0	15.2	39.3	35.9	9.7	0.0	30.4	0.0	17.2	40.7	32.4	5.5	4.1	20.7
製造業	1.9	15.1	37.7	37.7	7.5	0.0	28.2	0.0	24.5	43.4	27.4	3.8	0.9	6.7
卸売業	1.3	17.3	31.4	41.0	8.3	0.6	30.7	0.0	14.7	44.9	27.6	5.8	7.1	18.7
小売業	4.1	6.8	34.2	42.5	12.3	0.0	43.9	1.4	16.4	41.1	30.1	8.2	2.7	20.5
運輸・倉庫業	0.0	13.3	43.3	36.7	3.3	3.3	26.7	0.0	6.7	56.7	33.3	0.0	3.3	26.6
サービス業	2.8	19.1	40.4	31.9	5.7	0.0	15.7	0.0	23.4	52.5	22.0	2.1	0.0	0.7
中小企業	1.6	15.5	36.8	37.3	8.6	0.2	28.8	0.2	17.6	45.9	28.5	4.8	3.1	15.5
大企業	2.3	16.3	39.5	37.2	2.3	2.3	20.9	0.0	32.6	39.5	20.9	2.3	4.7	9.4





業界の景況

《業界景況は3期連続して悪化、次期予測は反転し改善へ》

地場企業から見た自社の属する業界の景況判断指数（DI値）は、全業種平均で「良くなった」と回答した企業割合が7.3%、「悪くなった」と回答した企業割合が47.3%、「横ばい」と回答した企業割合が44.1%となっており、DI値は40.0（前期DI 17.0）と前期比で-23.0ポイント悪化している。

業種別に対前期比でDI値を見ると、製造業-35.2ポイント（前期DI 13.0）、小売業-33.8ポイント（同 21.0）、運輸・倉庫業-33.5ポイント（同 3.2）、卸売業-21.7ポイント（同 24.4）、建設業-15.9ポイント（同 23.3）、サービス業-15.7（同 5.6）と全産業で悪化となった。

規模別のDI値においても、中小企業は前期比-23.5ポイント（前期DI 17.8）、大企業では前期比-16.4ポイント（同 6.8）の悪化となった。

次四半期予測DI値は29.4と今期比+10.6ポイントの改善が予測されている。

《業界の景気動向（前年同期と比較して）》

（単位 %）

	今四半期（19年7~9月期）実績							次四半期（19年10~12月期）予測						
	非常に良くなった	やや良くなった	横ばい	やや悪くなった	非常に悪くなった	未記入	DI値	非常に良くなる	やや良くなる	横ばい	やや悪くなる	非常に悪くなる	未記入	DI値
全業種	0.5	6.8	44.1	39.3	8.0	1.4	40.0	0.2	8.8	48.2	33.0	5.4	4.5	29.4
建設業	0.0	9.7	40.0	37.2	11.7	1.4	39.2	0.0	9.0	40.7	36.6	7.6	6.2	35.2
製造業	0.9	2.8	43.4	43.4	8.5	0.9	48.2	0.0	8.5	49.1	35.8	4.7	1.9	32.0
卸売業	0.0	4.5	43.6	42.3	8.3	1.3	46.1	0.0	7.1	47.4	31.4	6.4	7.7	30.7
小売業	1.4	5.5	31.5	50.7	11.0	0.0	54.8	1.4	9.6	42.5	34.2	8.2	4.1	31.4
運輸・倉庫業	0.0	3.3	53.3	40.0	0.0	3.3	36.7	0.0	3.3	60.0	33.3	0.0	3.3	30.0
サービス業	0.7	10.6	53.9	29.1	3.5	2.1	21.3	0.0	11.3	56.7	28.4	2.1	1.4	19.2
中小企業	0.5	6.6	43.3	40.0	8.4	1.3	41.3	0.2	8.2	48.0	33.6	5.6	4.4	30.8
大企業	0.0	9.3	55.8	30.2	2.3	2.3	23.2	0.0	16.3	51.2	25.6	2.3	4.7	11.6

2. 生産額、売上高、完成工事高

《2期ぶりに悪化、次期予測は反転し改善へ》

生産額、売上額、完成工事高は、全業種平均で「増えた」と回答した企業割合は18.3%、「減った」と回答した企業割合は33.6%となっており、DI値は 15.3（前期 10.2）と前期比-5.1ポイント悪化した。

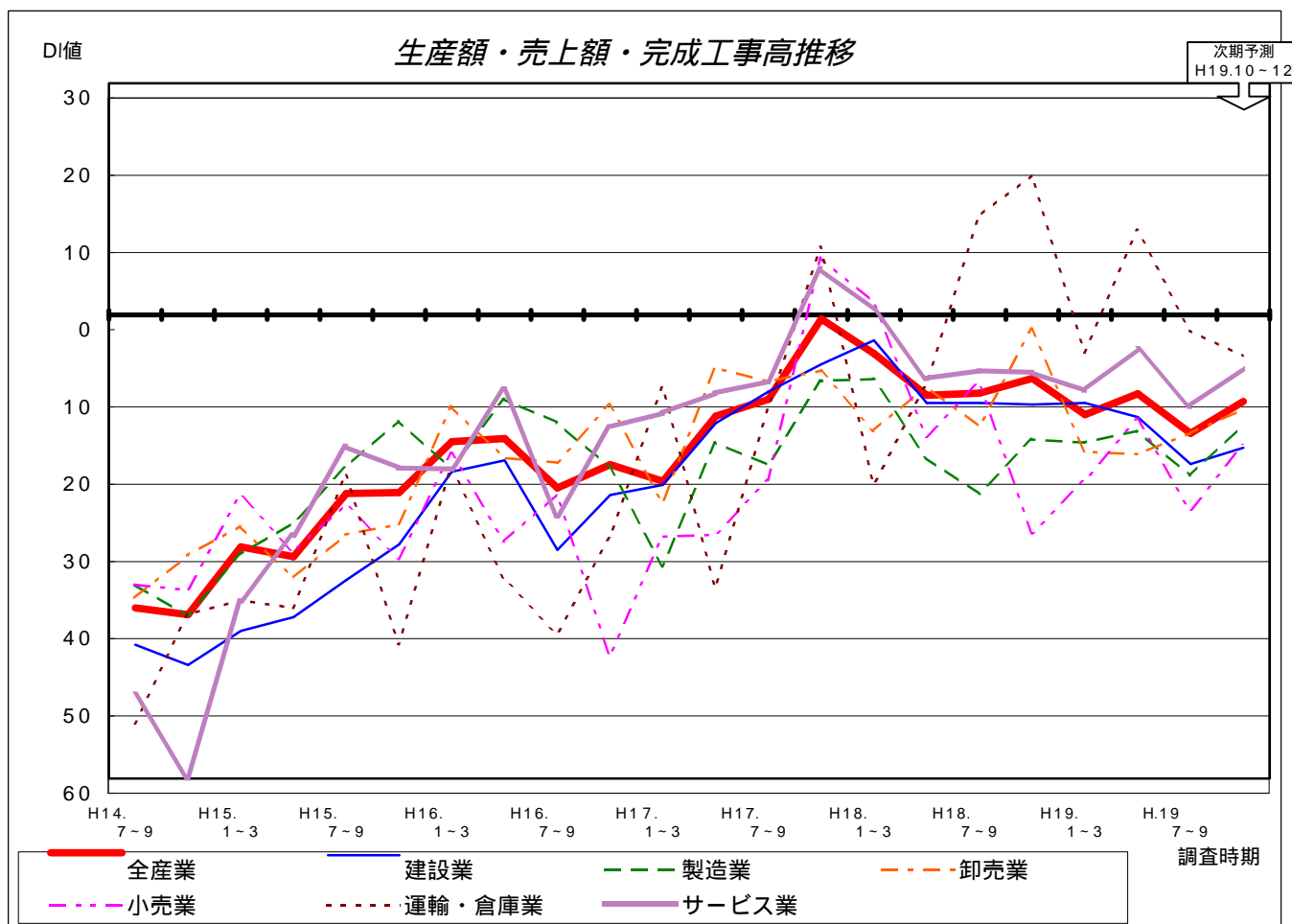
業種別に対前期比でDI値を見ると、卸売業では+2.7ポイントの改善が見られたものの、運輸・倉庫業-13.0ポイント、小売業-11.8ポイント、サービス業-7.4ポイント、建設業-6.1ポイント、製造業-5.8ポイントの悪化となった。

売上が増加した理由としては、「受注、需要の増加」55.5%、「得意先開拓・客数の増加」41.2%に集中している。一方で減少した理由としては、「受注、需要の減少」72.1%、「得意先開拓、客数の減少」38.8%、「客単価の低下」34.7%の順となっている。

規模別のDI値を見ると、中小企業は前期比-5.4ポイント(前期DI値 10.0)、大企業では前期比-2.3ポイント(同 11.8)の悪化となった。

(単位 %)

	今四半期 (19年 7~ 9月期) 実績							次四半期 (19年 10~ 12月期) 予測						
	2ヶタ増	1ヶタ増	横ばい	1ヶタ減	2ヶタ減	未記入	D値	2ヶタ増	1ヶタ増	横ばい	1ヶタ減	2ヶタ減	未記入	D値
全業種	3.4	14.9	44.7	25.5	8.1	3.4	15.3	1.4	13.7	52.4	21.8	4.5	6.3	11.2
建設業	2.1	14.5	43.4	26.9	9.0	4.1	19.3	1.4	9.0	55.2	20.7	6.9	6.9	17.2
製造業	3.8	11.3	50.0	21.7	12.3	0.9	18.9	0.9	14.2	53.8	21.7	5.7	3.8	12.3
卸売業	2.6	18.6	39.7	26.9	7.7	4.5	13.4	0.0	17.9	43.6	24.4	3.8	10.3	10.3
小売業	2.7	12.3	43.8	32.9	5.5	2.7	23.4	1.4	13.7	49.3	23.3	6.8	5.5	15.0
運輸・倉庫業	3.3	23.3	40.0	26.7	0.0	6.7	0.1	3.3	13.3	56.7	20.0	0.0	6.7	3.4
サービス業	5.7	13.5	48.9	21.3	7.8	2.8	9.9	2.8	13.5	58.9	19.9	1.4	3.5	5.0
中小企業	3.5	14.5	45.2	25.0	8.4	3.5	15.4	1.3	12.7	52.6	22.2	4.8	6.4	13.0
大企業	2.3	20.9	37.2	32.6	4.7	2.3	14.1	2.3	27.9	48.8	16.3	0.0	4.7	13.9



参考資料：（ 2 . 生産額、売上高、完成工事高 ）

今期の生産額、売上額、完成工事高が前年同期より増加した主な理由（複数回答可）（単位 %）

増加理由	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	天候などの自然条件	増加又は減少の注、需要	道路、交通事情の変化	製（商）品又は消費者の変化	格荷・販、売料金の上下、料	売出等の販売促進	へ開新製、（商分）野品	業者大手企業、他同	客得数の先増減拓	又は単価の上昇	品取扱量の増減（商）
全業種	12.6	55.5	0.0	5.0	18.5	5.0	10.1	3.4	41.2	15.1	13.4
建設業	0.0	75.0	0.0	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	37.5	16.7	8.3
製造業	12.5	87.5	0.0	6.3	12.5	0.0	12.5	0.0	12.5	18.8	6.3
卸売業	18.2	48.5	0.0	6.1	39.4	6.1	12.1	6.1	39.4	12.1	24.2
小売業	27.3	36.4	0.0	9.1	18.2	9.1	9.1	0.0	18.2	18.2	18.2
運輸・倉庫業	37.5	37.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0	25.0
サービス業	3.7	40.7	0.0	3.7	11.1	7.4	14.8	3.7	63.0	18.5	3.7
中小企業	11.0	58.7	0.0	4.6	16.5	2.8	10.1	3.7	41.3	13.8	11.0
大企業	30.0	20.0	0.0	10.0	40.0	30.0	10.0	0.0	40.0	30.0	40.0

増加理由	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	品取扱量の向上（商）	採算部門の縮小	工場、立地の移転等	支店の増設、特約店の増減	老朽設備の低下、競争力の低化	又は導入、買替	機械設備の増減、外資	営業の増減、外資	技術者の増減、運転	又は閉鎖の増設	その他
全業種	1.7	0.8	0.8	3.4	0.8	0.8	4.2	3.4	0.0	1.7	3.4
建設業	0.0	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	4.2	4.2
製造業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	6.3
卸売業	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	6.1	0.0	0.0	0.0	3.0
小売業	0.0	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1
運輸・倉庫業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0
サービス業	0.0	3.7	0.0	7.4	3.7	0.0	7.4	3.7	0.0	0.0	0.0
中小企業	0.9	0.9	0.9	1.8	0.9	0.9	3.7	3.7	0.0	1.8	3.7
大企業	10.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0

今期の生産額、売上額、完成工事高が前年同期より減少した主な理由（複数回答可）（単位 %）

減少理由	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	天候などの自然条件	増加又は減少の注、需要	道路、交通事情の変化	製（商）品又は消費者の変化	格荷・販、売料金の上下、料	売出等の販売促進	へ開新製、（商分）野品	業者大手企業、他同	客得数の先増減拓	又は単価の上昇	品取扱量の増減（商）
全業種	20.1	72.1	1.8	16.4	21.9	1.4	0.9	20.5	38.8	34.7	6.8
建設業	7.7	92.3	0.0	5.8	23.1	0.0	0.0	19.2	30.8	48.1	5.8
製造業	11.1	86.1	2.8	13.9	27.8	2.8	0.0	13.9	41.7	25.0	5.6
卸売業	27.8	66.7	1.9	25.9	25.9	0.0	1.9	14.8	40.7	25.9	5.6
小売業	42.9	46.4	0.0	25.0	21.4	3.6	0.0	28.6	39.3	25.0	7.1
運輸・倉庫業	37.5	50.0	12.5	12.5	25.0	0.0	0.0	37.5	50.0	37.5	12.5
サービス業	14.6	63.4	2.4	14.6	9.8	2.4	2.4	26.8	41.5	43.9	9.8
中小企業	19.7	73.4	2.0	17.2	22.7	1.0	1.0	20.7	39.9	35.5	7.4
大企業	25.0	56.3	0.0	6.3	12.5	6.3	0.0	18.8	25.0	25.0	0.0

減少理由	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	品取扱量の向上（商）	採算部門の縮小	工場、立地の移転等	支店の増設、特約店の増減	老朽設備の低下、競争力の低化	又は導入、買替	機械設備の増減、外資	営業の増減、外資	技術者の増減、運転	又は閉鎖の増設	その他
全業種	2.3	0.9	0.5	1.4	2.3	2.3	2.7	5.0	0.0	6.8	0.5
建設業	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	0.0	5.8	0.0	3.8	0.0
製造業	0.0	0.0	0.0	2.8	5.6	0.0	2.8	0.0	0.0	11.1	2.8
卸売業	1.9	0.0	0.0	3.7	3.7	0.0	5.6	0.0	0.0	9.3	0.0
小売業	7.1	3.6	0.0	0.0	3.6	3.6	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0
運輸・倉庫業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
サービス業	0.0	2.4	2.4	0.0	0.0	4.9	4.9	9.8	0.0	7.3	0.0
中小企業	2.5	1.0	0.5	1.5	2.5	2.0	3.0	5.4	0.0	6.4	0.5
大企業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0

3. 原材料、製（商）品仕入価格

《2期連続して上昇、次期予測は反転し下落へ》

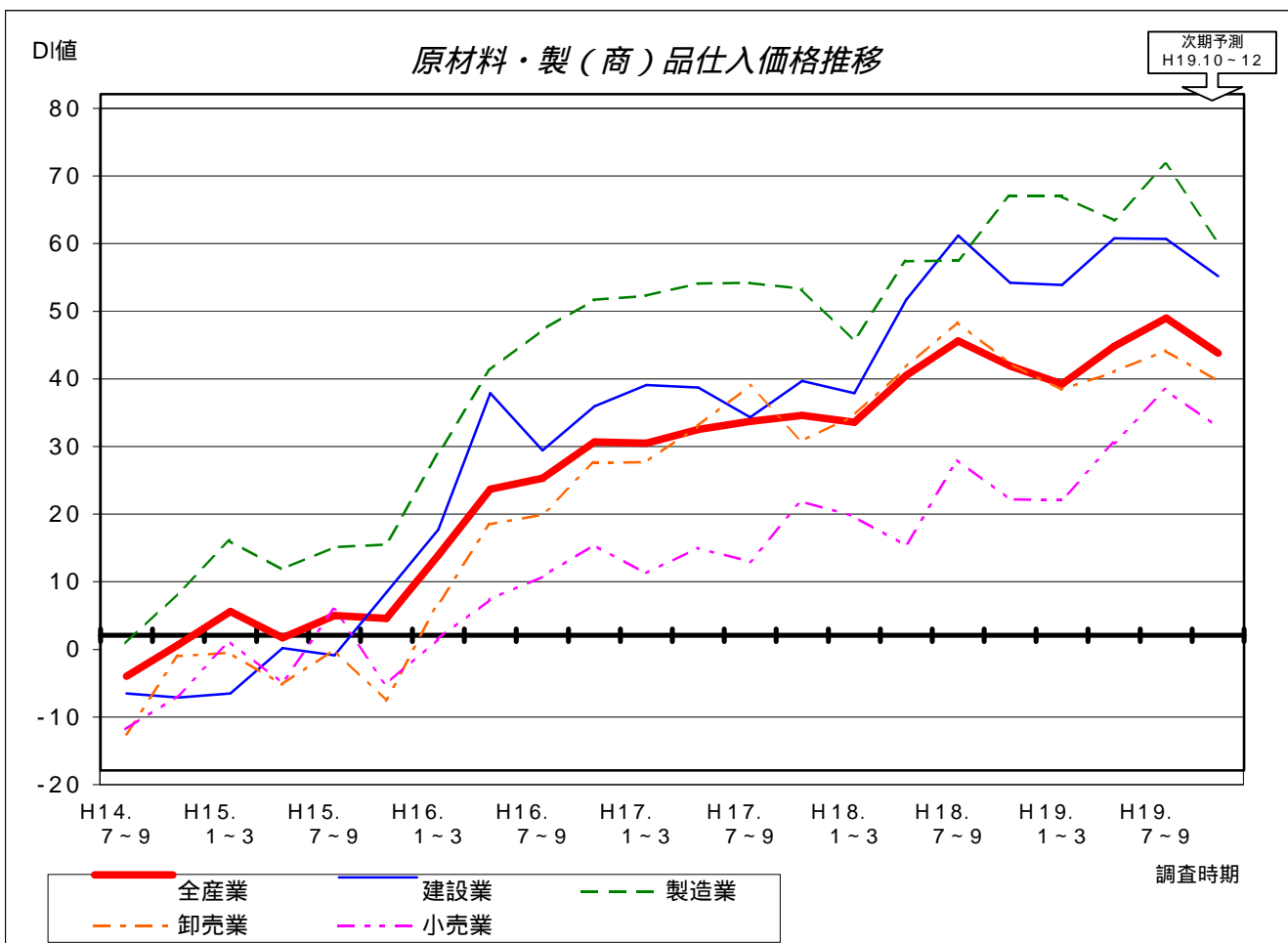
原材料、製（商）品仕入価格は「上昇」と回答した企業割合は49.5%、「下落」と回答した企業割合は2.6%となっており、DI値は46.9（前期DI値42.7）と前期比+4.2ポイントの「上昇」となっている。

業種別に対前期比でDI値を見ると、製造業+8.2ポイント、小売業+7.9ポイント、卸売業+3.2ポイントの上昇となっているが、建設業は-0.1ポイントの下落となっている。

また、次期予測DI値については、41.7となっており、今期比で-5.2ポイントの「下落」予測となっている。

《原材料、製品仕入価格(前年同期と比較して)》 (単位 %)

	今四半期(19年7~9月期)実績					次四半期(19年10~12月期)予測				
	上昇	横ばい	下落	未記入	DI値	上昇	横ばい	下落	未記入	DI値
全業種	49.5	39.8	2.6	8.1	46.9	43.5	40.7	1.8	14.0	41.7
建設業	60.0	33.1	1.4	5.5	58.6	53.8	35.2	0.7	10.3	53.1
製造業	71.7	27.4	0.0	0.9	71.7	61.3	29.2	0.9	8.5	60.4
卸売業	50.6	41.7	6.4	1.3	44.2	42.3	44.2	2.6	10.9	39.7
小売業	41.1	56.2	2.7	0.0	38.4	35.6	56.2	2.7	5.5	32.9
運輸・倉庫業	43.3	16.7	0.0	40.0	43.3	43.3	16.7	0.0	40.0	43.3
サービス業	26.2	50.4	2.1	21.3	24.1	24.8	48.2	2.8	24.1	22.0
中小企業	50.3	39.3	2.8	7.6	47.5	44.1	40.3	2.0	13.7	42.1
大企業	37.2	46.5	0.0	16.3	37.2	34.9	46.5	0.0	18.6	34.9



4. 受注価格、販売価格

《2期ぶりに悪化、次期予測は反転し改善へ》

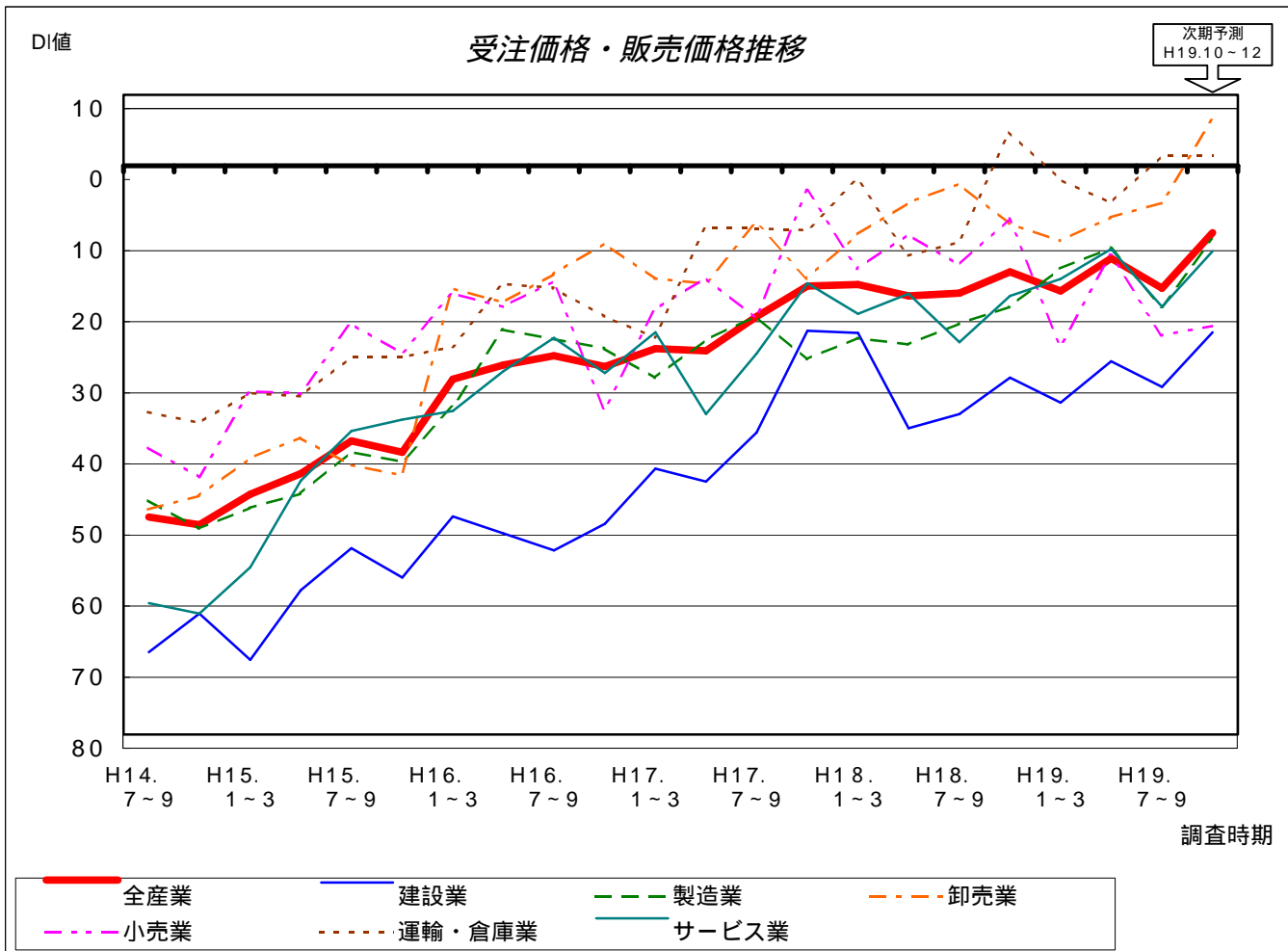
受注価格、販売価格については、「上昇」と回答した企業割合は9.1%、「下落」と回答した企業割合は26.3%となっており、DI値は17.2（前期DI値13.0）と前期比-4.2ポイント悪化した。

業種別に対前期比でDI値を見ると、卸売業は+2.0ポイント改善したが、小売業-11.3ポイント、製造業-8.3ポイント、サービス業-8.1ポイント、運輸・倉庫業-6.6ポイント、建設業-3.6ポイントの悪化となった。

次四半期予測DI値については、9.4となっており、今期比で+7.8ポイントの改善予測となっている。

《受注価格、販売価格（前年同月と比較して）》 (単位 %)

	今四半期 (19年 7～ 9月期)実績					次四半期 (19年 10～ 12月期)予測				
	上昇	横ばい	下落	未記入	DI値	上昇	横ばい	下落	未記入	DI値
全業種	9.1	61.0	26.3	3.7	17.2	10.0	60.1	19.4	10.6	9.4
建設業	5.5	53.8	36.6	4.1	31.1	6.9	51.7	30.3	11.0	23.4
製造業	5.7	69.8	23.6	0.9	17.9	6.6	67.9	15.1	10.4	8.5
卸売業	17.9	60.3	21.2	0.6	3.3	19.9	57.7	11.5	10.9	8.4
小売業	9.6	58.9	31.5	0.0	21.9	8.2	56.2	28.8	6.8	20.6
運輸・倉庫業	13.3	60.0	10.0	16.7	3.3	10.0	66.7	6.7	16.7	3.3
サービス業	4.3	63.8	24.1	7.8	19.8	5.7	66.0	17.7	10.6	12.0
中小企業	9.0	60.7	26.6	3.6	17.6	9.7	59.5	20.1	10.7	10.4
大企業	9.3	65.1	20.9	4.7	11.6	14.0	67.4	9.3	9.3	4.7



5. 製(商)品在庫

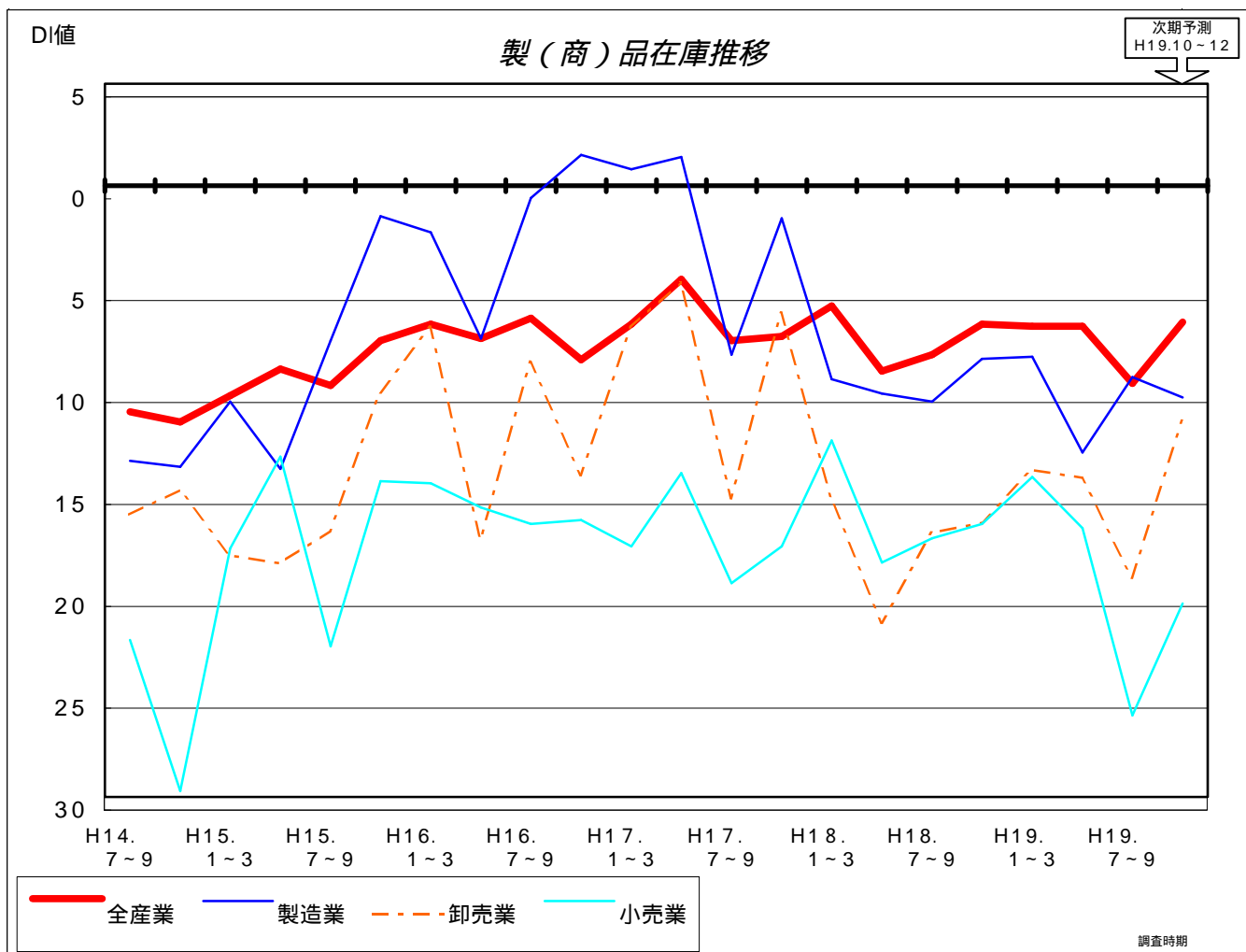
《2期ぶりに悪化、次期予測は反転し改善へ》

製(商)品在庫は、「適正」と回答した企業割合は63.0%、「不足」と回答した企業割合は1.8%、「過剰」と回答した企業割合は11.5%となっており、DI値は9.7(前期DI値6.9)と前期比-2.8ポイント悪化した。

次四半期予測DI値については6.7となっており、今期比で+3.0ポイントの改善が予測されている。

《製(商)品在庫(貴社の適正水準と比較して)》 (単位%)

	今四半期(19年7~9月期)実績					次四半期(19年10~12月期)予測				
	不足	適正	過剰	未記入	DI値	不足	適正	過剰	未記入	DI値
全業種	1.8	63.0	11.5	23.7	9.7	1.7	59.9	8.4	30.0	6.7
建設業	0.0	55.2	2.1	42.8	2.1	0.0	52.4	1.4	46.2	1.4
製造業	3.8	80.2	13.2	2.8	9.4	2.8	69.8	13.2	14.2	10.4
卸売業	1.9	73.1	20.5	4.5	18.6	1.3	72.4	12.2	14.1	10.9
小売業	1.4	69.9	27.4	1.4	26.0	1.4	69.9	21.9	6.8	20.5
運輸・倉庫業	3.3	20.0	3.3	73.3	0.0	0.0	20.0	3.3	76.7	3.3
サービス業	2.1	52.5	3.5	41.8	1.4	3.5	49.6	2.1	44.7	1.4
中小企業	2.0	63.3	11.5	23.2	9.5	1.8	60.2	8.2	29.8	6.4
大企業	0.0	58.1	11.6	30.2	11.6	0.0	55.8	11.6	32.6	11.6



6. 営業利益

《2期ぶりに悪化、次期予測は反転し改善へ》

営業利益は、「増加」と回答した企業割合は10.9%、「減少した」と回答した企業割合は47.3%、「横ばい」と回答した企業割合は39.8%となり、DI値は36.4（前期DI 22.9）と前期比-13.5ポイント悪化した。

業種別に対前期比でDI値を見ると、運輸・倉庫業-26.6ポイント（前期DI値0.0）、小売業-23.5ポイント（同 19.0）、製造業-23.0ポイント（同 27.0）、卸売業-12.5ポイント（同 21.4）、建設業-7.1ポイント（同 33.5）、サービス業-6.1（同 17.3）の悪化となった。

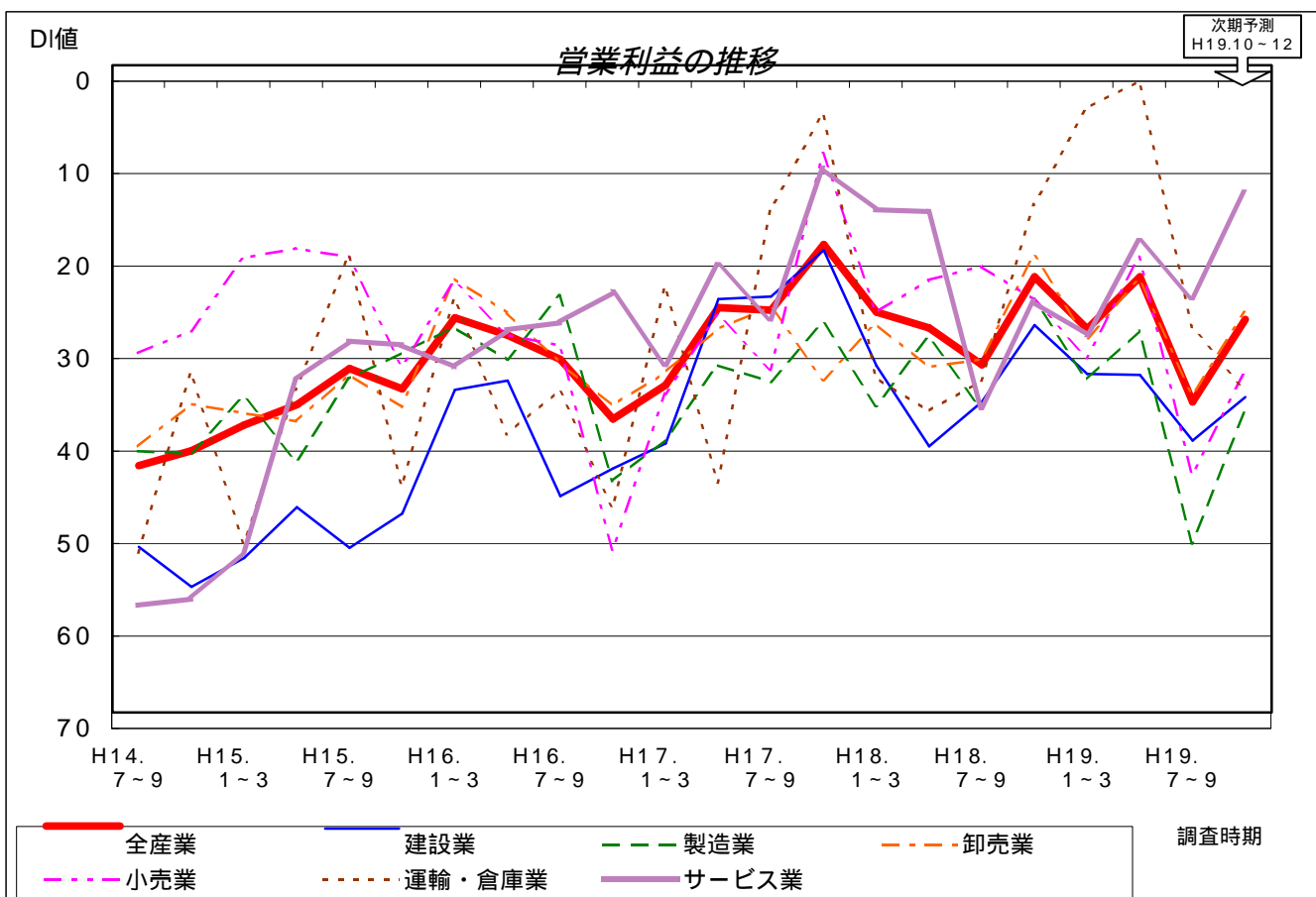
規模別のDI値を見ると、中小企業は前期比-13.6ポイント（前期DI 24.1）、大企業では前期比-10.1ポイント（同 8.5）の悪化となった。

次四半期予測DI値は27.5と、今期比で+8.9ポイントの改善が予測されている。

《営業利益（前年同期と比較して）》

（単位 %）

	今四半期（19年7～9月期）実績					次四半期（19年10～12月期）予測				
	増加	横ばい	減少	未記入	DI値	増加	横ばい	減少	未記入	DI値
全業種	10.9	39.8	47.3	2.0	36.4	8.9	45.6	36.4	9.1	27.5
建設業	9.7	38.6	50.3	1.4	40.6	6.9	43.4	42.8	6.9	35.9
製造業	11.3	27.4	61.3	0.0	50.0	10.4	33.0	46.2	10.4	35.8
卸売業	10.3	44.2	44.2	1.3	33.9	7.1	49.4	32.1	11.5	25.0
小売業	8.2	41.1	50.7	0.0	42.5	9.6	41.1	41.1	8.2	31.5
運輸・倉庫業	6.7	56.7	33.3	3.3	26.6	3.3	56.7	36.7	3.3	33.4
サービス業	14.9	41.1	38.3	5.7	23.4	12.8	53.2	24.8	9.2	12.0
中小企業	10.2	40.0	47.9	2.0	37.7	7.9	45.4	37.5	9.2	29.6
大企業	20.9	37.2	39.5	2.3	18.6	23.3	48.8	20.9	7.0	2.4



7. 売掛期間

《3期ぶりに悪化、次期予測は反転し改善へ》

売掛期間は、「短縮化」と回答した企業割合は1.8%、「長期化」と回答した企業割合は9.8%、「不変」と回答した企業割合は84.9%となっており、D I 値は 8.0と前期比-0.1ポイント悪化した。

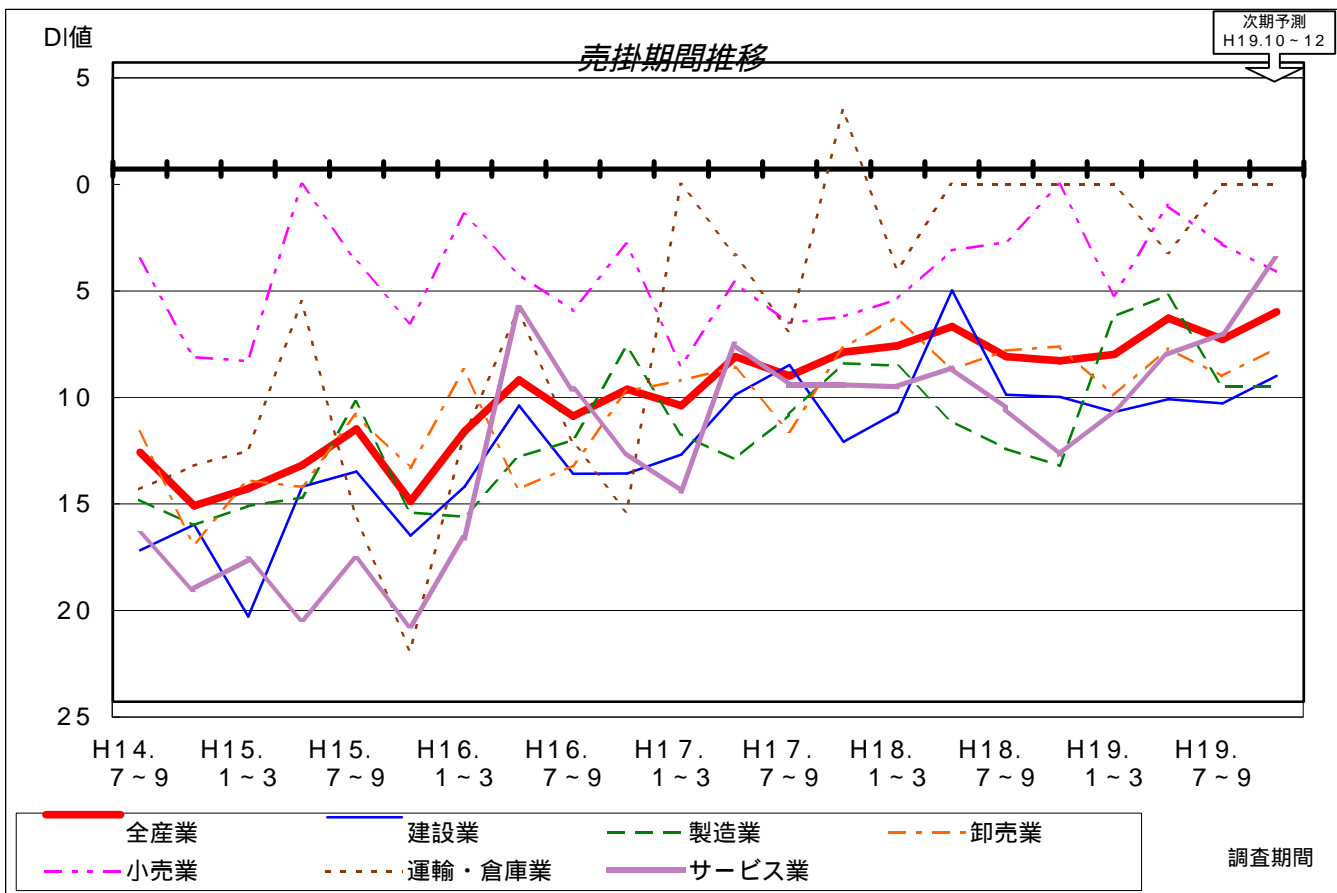
規模別のD I 値を見ると、中小企業は前期比-0.3ポイント（前期D I 7.6）、大企業では前期比-7.6ポイント（同 1.7）の悪化となっている。

次四半期のD I 値については 6.7と、今期比で+1.3ポイントの改善が予測されている。

《売掛期間（前年同期と比較して）》

（単位 %）

	今四半期 (19年 7～ 9月期) 実績					次四半期 (19年 10～ 12月期) 予測				
	短縮化	不変	長期化	未記入	D I 値	短縮化	不変	長期化	未記入	D I 値
全業種	1.8	84.9	9.8	3.4	8.0	1.7	79.7	8.4	10.1	6.7
建設業	0.0	82.8	11.0	6.2	11.0	0.0	79.3	9.7	11.0	9.7
製造業	0.9	88.7	10.4	0.0	9.5	0.9	78.3	10.4	10.4	9.5
卸売業	1.9	85.3	10.9	1.9	9.0	1.3	78.2	9.0	11.5	7.7
小売業	2.7	90.4	5.5	1.4	2.8	1.4	84.9	5.5	8.2	4.1
運輸・倉庫業	0.0	93.3	0.0	6.7	0.0	0.0	93.3	0.0	6.7	0.0
サービス業	4.3	79.4	11.3	5.0	7.0	5.0	77.3	8.5	9.2	3.5
中小企業	1.8	85.2	9.7	3.3	7.9	1.6	79.9	8.4	10.0	6.8
大企業	2.3	81.4	11.6	4.7	9.3	2.3	76.7	9.3	11.6	7.0



8. 資金繰り

《2期連続で改善、次期予測は反転し悪化へ》

資金繰りについては、「楽である」と回答した企業は5.2%、「苦しい」と回答した企業は24.1%、「不変」と回答した企業は67.7%となっており、DI値は 18.9と前期比-2.8ポイントの悪化となった。

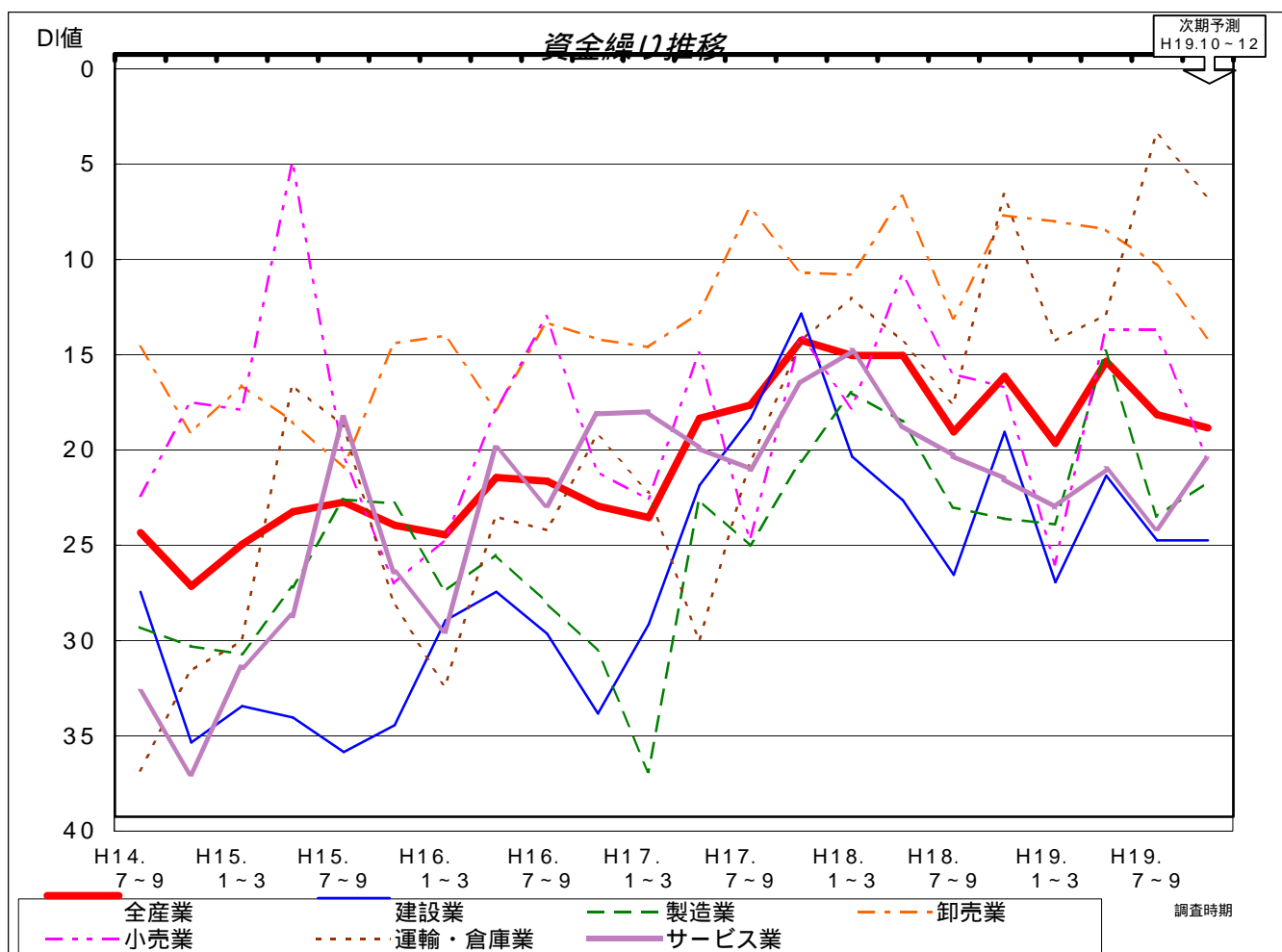
業種別に対前期比でDI値を見ると、運輸・倉庫業は+9.5ポイント改善し、小売業は横ばいとなったものの、製造業-8.7ポイント、建設業-3.4ポイント、サービス業-3.1ポイント、卸売業-1.9ポイントの悪化となった。

規模別のDI値を見ると、中小企業は前期比-3.1ポイント(前期DI 17.1)の悪化となったものの、大企業では前期比+5.5ポイント(同 5.5)の改善となった。

《資金繰り(前年同期と比較して)》

(単位 %)

	今四半期(19年7~9月期)実績					次四半期(19年10~12月期)予測				
	楽である	不変	苦しい	未記入	DI値	楽になる	不変	苦しくなる	未記入	DI値
全業種	5.2	67.7	24.1	2.9	18.9	2.8	65.0	22.4	9.8	19.6
建設業	2.8	66.9	28.3	2.1	25.5	1.4	63.4	26.9	8.3	25.5
製造業	5.7	64.2	29.2	0.9	23.5	2.8	60.4	24.5	12.3	21.7
卸売業	6.4	75.0	16.7	1.9	10.3	3.2	68.6	17.3	10.9	14.1
小売業	9.6	65.8	23.3	1.4	13.7	1.4	69.9	21.9	6.8	20.5
運輸・倉庫業	3.3	83.3	6.7	6.7	3.4	3.3	73.3	10.0	13.3	6.7
サービス業	4.3	61.0	28.4	6.4	24.1	4.3	61.7	24.8	9.2	20.5
中小企業	4.8	67.3	25.0	3.0	20.2	2.5	64.3	23.2	10.0	20.7
大企業	11.6	74.4	11.6	2.3	0.0	7.0	74.4	11.6	7.0	4.6



9. 100万円以上の新規借入

100万円以上の新規借入を「行った」とする企業は47.6%（前期45.4%）と前期比で+2.2%の増加となった。一方で、「行ってない」とする企業は50.4%（前期52.0%）と前期比で-1.6%の減少となった。

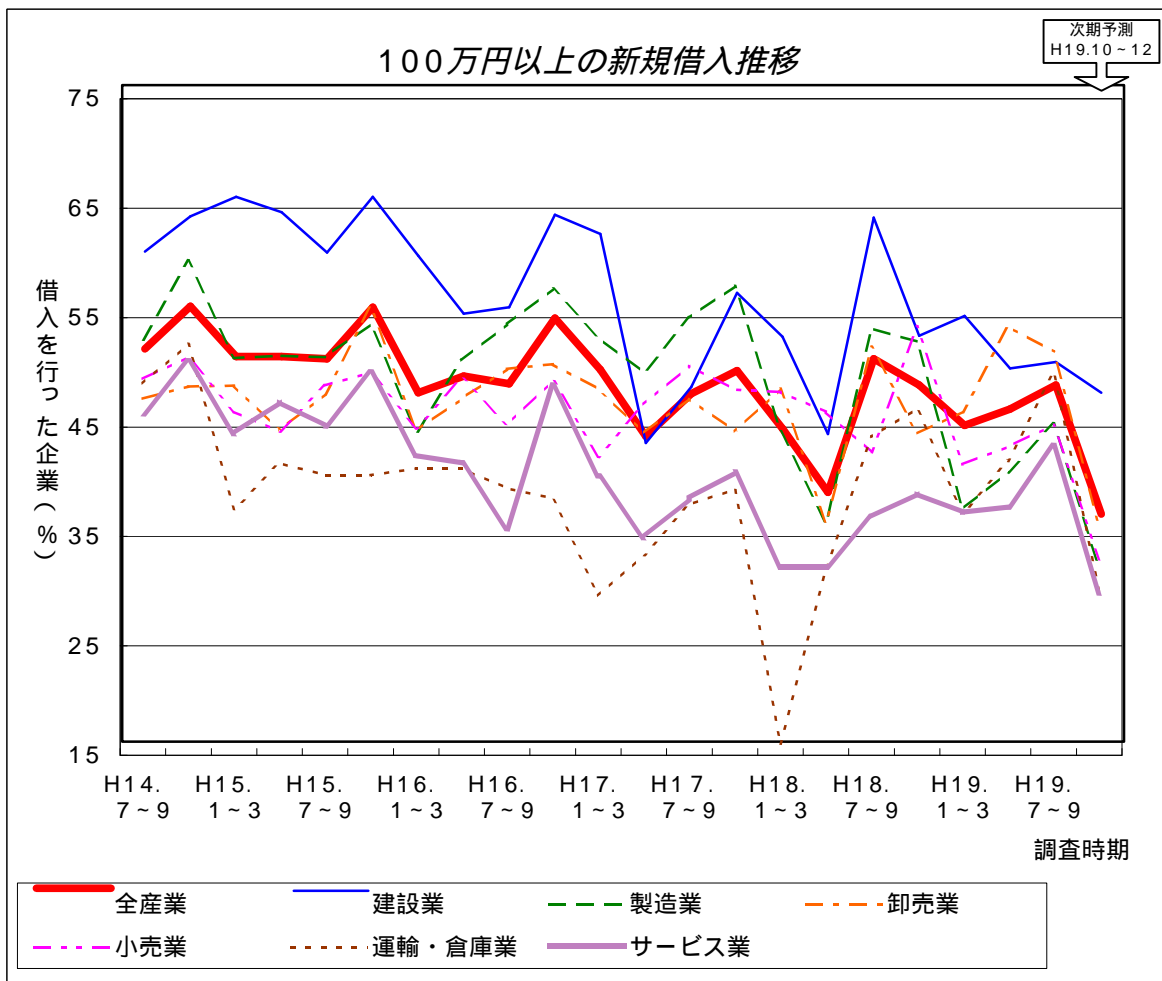
資金用途については、「運転」74.2%、「運転・設備」14.8%、「設備」7.7%という内訳になっている。

次四半期については、「行う予定」とする企業は35.8%、「行わない」とする企業は57.3%となっている。

《 100万円以上の新規借入 》

(単位 %)

	今四半期 (19年7~9月期)実績			次四半期 (19年10~12月期)予測		
	行った	行ってない	無回答	行う予定	行わない	無回答
全業種	47.6	50.4	2.0	35.8	57.3	6.9
建設業	49.7	49.0	1.4	46.9	46.9	6.2
製造業	45.3	53.8	0.9	32.1	61.3	6.6
卸売業	51.9	44.9	3.2	35.9	57.1	7.1
小売業	45.2	54.8	0.0	32.9	61.6	5.5
運輸・倉庫業	50.0	40.0	10.0	30.0	56.7	13.3
サービス業	43.3	55.3	1.4	29.8	63.1	7.1
中小企業	46.5	51.3	2.1	34.0	58.6	7.4
大企業	62.8	37.2	0.0	60.5	39.5	0.0



100万円以上の新規借入資金使途

(単位 %)

	今四半期100万円以上の 新規借入の資金使途(実績)				次四半期100万円以上の 新規借入予定の資金使途(予測)			
	運転資金	運転設備	設備資金	無回答	運転資金	運転設備	設備資金	無回答
全業種	74.2	14.8	7.7	3.2	76.0	12.9	7.7	3.4
建設業	84.7	8.3	4.2	2.8	82.4	5.9	5.9	5.9
製造業	77.1	12.5	10.4	0.0	70.6	11.8	14.7	2.9
卸売業	79.0	13.6	4.9	2.5	78.6	12.5	7.1	1.8
小売業	60.6	24.2	9.1	6.1	62.5	25.0	8.3	4.2
運輸・倉庫業	40.0	26.7	20.0	13.3	55.6	33.3	11.1	0.0
サービス業	68.9	18.0	9.8	3.3	78.6	14.3	4.8	2.4
中小企業	77.7	11.7	7.4	3.2	80.7	8.2	7.7	3.4
大企業	37.0	48.1	11.1	3.7	38.5	50.0	7.7	3.8

10. 100万円以上の設備投資

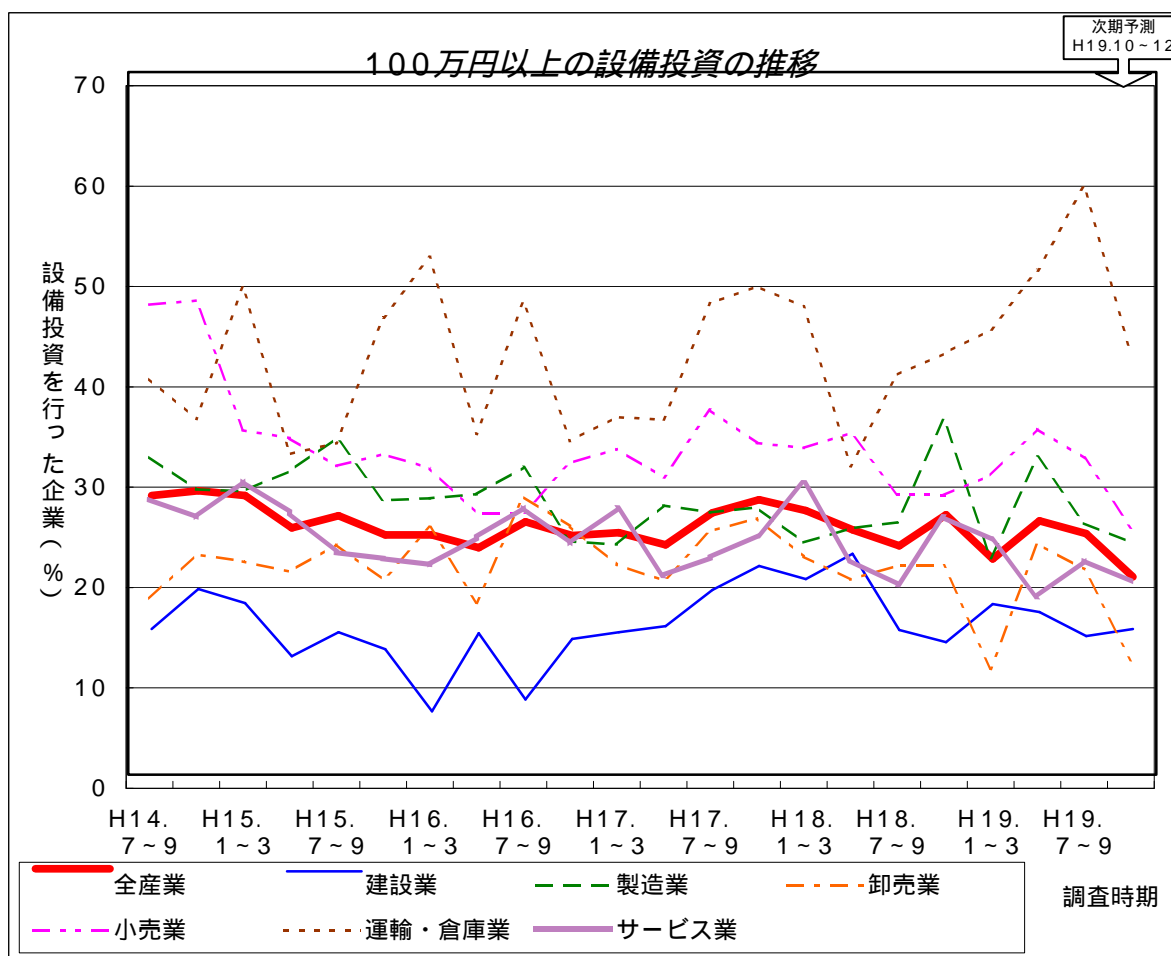
100万円以上の設備投資を「行った」とする企業は24.0%、「行ってない」とする企業は72.0%となっており、その投資内容については、「新規」32.7%、「新規・更新」34.6%、「更新」27.6%という内訳になった。

次期予測については、「行う予定」とする企業は19.7%、「行わない」とする企業は71.9%であり、その投資内容については、「新規」23.4%、「新規・更新」32.8%、「更新」35.2%となっている。

《100万円以上の設備投資》

(単位 %)

	今四半期(19年7~9月期)実績			次四半期(19年10~12月期)予測		
	行った	行ってない	無回答	行う予定	行わない	無回答
全業種	24.0	72.0	4.0	19.7	71.9	8.4
建設業	13.8	82.1	4.1	14.5	77.2	8.3
製造業	26.4	68.9	4.7	24.5	66.0	9.4
卸売業	21.8	73.1	5.1	12.8	76.9	10.3
小売業	32.9	64.4	2.7	26.0	68.5	5.5
運輸・倉庫業	60.0	36.7	3.3	43.3	53.3	3.3
サービス業	22.7	74.5	2.8	20.6	70.9	8.5
中小企業	20.7	75.0	4.3	16.9	74.0	9.0
大企業	69.8	30.2	0.0	58.1	41.9	0.0



100万円以上の設備投資

(単位 %)

	今四半期 100万円以上の 設備投資の資金使途(実績)				次四半期 100万円以上の 設備投資計画の資金使途(予測)			
	新規	新規、更新	更新	無回答	新規	新規、更新	更新	無回答
全業種	32.7	34.6	27.6	5.1	23.4	32.8	35.2	8.6
建設業	35.0	35.0	30.0	0.0	19.0	38.1	33.3	9.5
製造業	46.4	25.0	25.0	3.6	26.9	34.6	30.8	7.7
卸売業	35.3	32.4	26.5	5.9	40.0	20.0	35.0	5.0
小売業	29.2	37.5	29.2	4.2	21.1	42.1	31.6	5.3
運輸・倉庫業	16.7	50.0	27.8	5.6	15.4	30.8	53.8	0.0
サービス業	28.1	34.4	28.1	9.4	17.2	31.0	34.5	17.2
中小企業	37.3	28.6	29.4	4.8	27.2	26.2	36.9	9.7
大企業	13.3	60.0	20.0	6.7	8.0	60.0	28.0	4.0

11. 当面の経営上の問題点

当面の経営上の問題点としては、「受注、販売競争の激化」59.3%、「売上高、生産額、工事高の伸び悩み」51.9%、「営業利益の低下」44.9%の3項目を指摘する傾向が依然として続いており、全業種ともほぼ3項目に集中している。

他に指摘が集中した項目として、建設業の「官公需要の停滞」46.9%、「原材料高、入手難」31.7%。製造業の「原材料高、入手難」48.1%、「販売価格への転嫁難」34.9%。卸売業の「販売価格への転嫁難」34.6%。小売業の「同業者、類似店、大型店進出」39.7%、「販売価格への転嫁難」31.5%。運輸・倉庫業の「人材難、求人難、定着性の悪化」56.7%、「経費の増加」33.3%。サービス業の「人材難、求人難、定着性の悪化」37.6%が挙げられ、3割を超す指摘となっている。

《当面の経営上の問題点(複数回答可)》

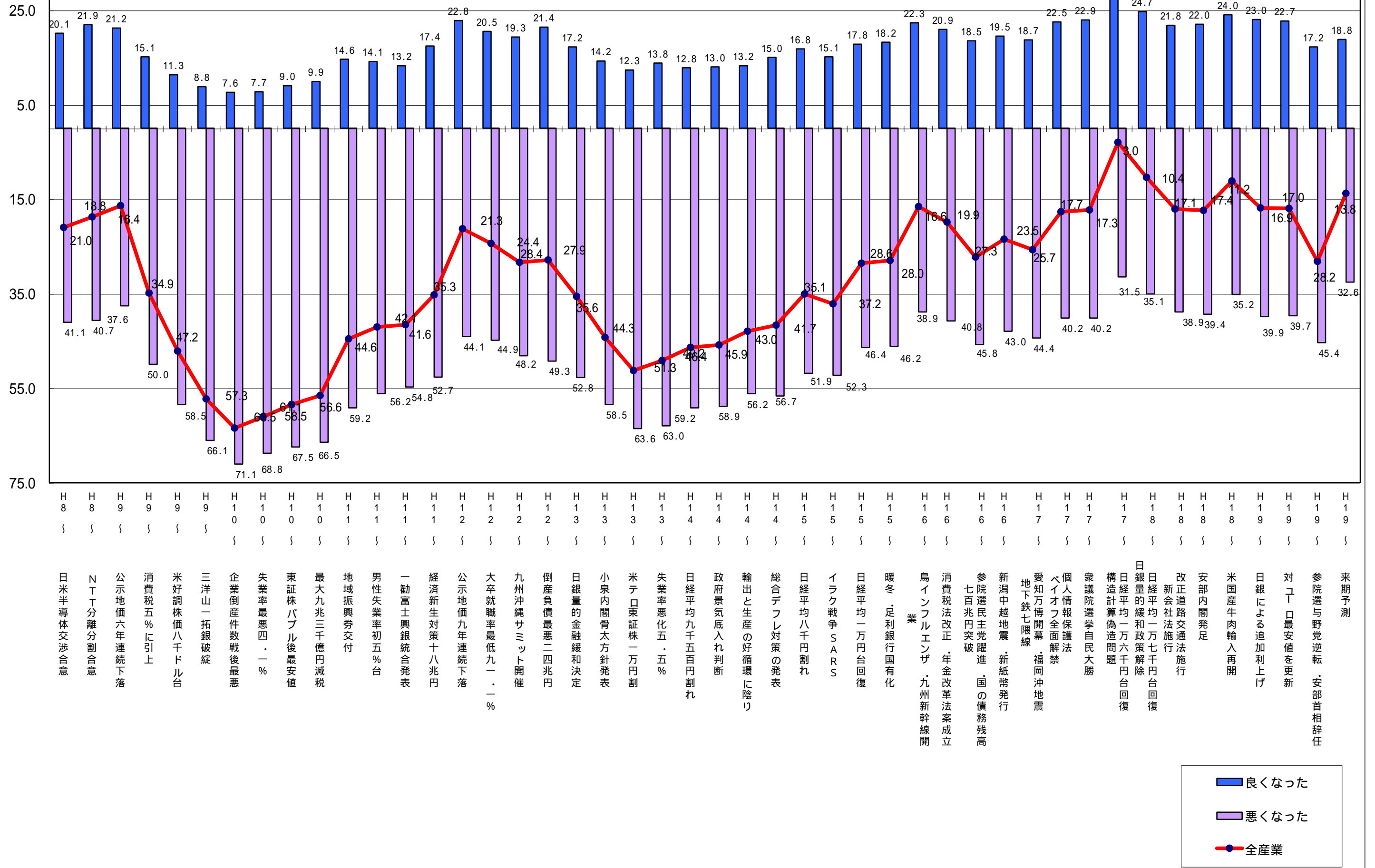
(単位 %)

問題点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	の受注、販売競争の激化、	び額売、上額、高の産伸	出店、業者、大型、店の進	官公需要の停滞	輸出不振	元請の減少	低下率、稼働率	難原材料高、入手	の出荷、納品価格	過剰在庫	嫁販売価格への転	増難販、売代金の債権の収	化売、掛金の長期
全業種	59.3	51.9	16.6	20.3	0.6	6.6	3.8	26.1	11.8	4.8	24.9	4.8	6.6
建設業	71.7	59.3	11.7	46.9	0.0	21.4	4.8	31.7	9.0	0.0	13.8	4.1	6.2
製造業	52.8	49.1	9.4	14.2	2.8	1.9	5.7	48.1	17.0	3.8	34.9	1.9	5.7
卸売業	61.5	51.9	15.4	14.1	0.6	3.2	1.3	21.8	18.6	11.5	34.6	9.6	10.9
小売業	60.3	49.3	39.7	6.8	0.0	1.4	1.4	19.2	9.6	9.6	31.5	5.5	2.7
運輸・倉庫業	30.0	43.3	10.0	10.0	0.0	0.0	16.7	23.3	3.3	0.0	20.0	0.0	0.0
サービス業	54.6	49.6	17.7	13.5	0.0	2.8	2.8	12.8	6.4	1.4	15.6	2.8	6.4
中小企業	59.2	52.3	16.3	20.6	0.7	6.9	4.1	26.5	11.8	4.6	25.2	5.1	6.6
大企業	60.5	46.5	20.9	16.3	0.0	2.3	0.0	20.9	11.6	7.0	20.9	0.0	7.0

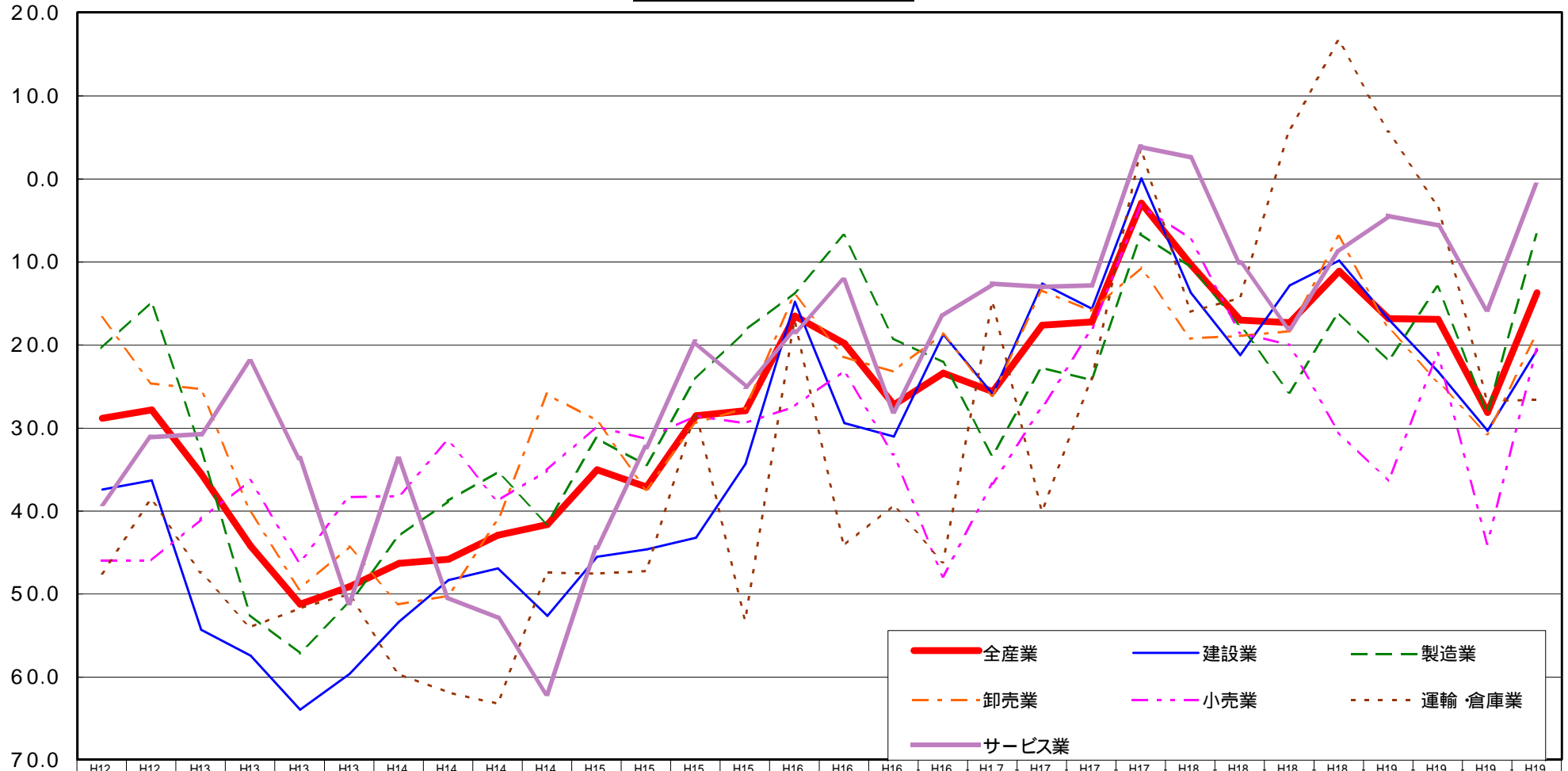
問題点	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	経費の増加	営業利益の低下	不隘店、駐工場用地狭	代刺店、老朽設備、近	が家賃地代の値上	化難人、材定着、性求の悪	費人手過剰、人件	対労務管理、組合	資金借入難	金利負担増加	難情報不足、人材	その他	無回答
全業種	23.2	44.9	1.4	3.8	0.6	24.4	5.7	3.7	6.3	9.8	5.1	2.0	2.3
建設業	22.8	54.5	0.0	0.7	0.7	23.4	6.9	2.8	8.3	11.0	4.8	2.1	1.4
製造業	22.6	43.4	0.9	3.8	0.0	17.0	4.7	1.9	6.6	5.7	1.9	2.8	3.8
卸売業	21.8	46.2	0.6	1.3	0.0	17.9	1.3	1.9	3.2	9.0	3.8	1.9	3.2
小売業	19.2	47.9	2.7	5.5	2.7	12.3	4.1	1.4	2.7	11.0	5.5	0.0	1.4
運輸・倉庫業	33.3	33.3	6.7	20.0	0.0	56.7	6.7	13.3	3.3	13.3	0.0	3.3	6.7
サービス業	25.5	35.5	2.1	5.7	0.7	37.6	10.6	7.1	9.9	11.3	9.9	2.1	0.7
中小企業	22.9	45.4	1.5	3.8	0.5	24.2	5.6	3.6	6.7	9.5	5.1	1.8	2.3
大企業	27.9	37.2	0.0	4.7	2.3	27.9	7.0	4.7	0.0	14.0	4.7	4.7	2.3

自社業況の景況判断推移（「良くなった」「悪くなった」別、時代背景参考）

自社業況DI値の推移



自社業況DI値の推移



	H12. 7~9	H12. 10~12	H13. 1~3	H13. 4~6	H13. 7~9	H13. 10~12	H14. 1~3	H14. 4~6	H14. 7~9	H14. 10~12	H15. 1~3	H15. 4~6	H15. 7~9	H15. 10~12	H16. 1~3	H16. 4~6	H16. 7~9	H16. 10~12	H17. 1~3	H17. 4~6	H17. 7~9	H17. 10~12	H18. 1~3	H18. 4~6	H18. 7~9	H18. 10~12	H19. 1~3	H19. 4~6	H19. 7~9	H19. 10~12
全産業	28.9	27.9	35.6	44.3	51.3	49.2	46.4	45.9	43.0	41.7	35.1	37.2	28.6	28.0	16.6	19.9	27.3	23.5	25.7	17.7	17.3	3.0	10.4	17.1	17.4	11.2	16.9	17.0	28.2	13.8
建設業	37.5	36.4	54.4	57.5	64.0	59.7	53.4	48.4	47.0	52.7	45.6	44.7	43.3	34.4	14.9	29.5	31.1	18.8	26.0	12.7	15.7	0.0	13.8	21.3	12.9	9.9	17.0	23.3	30.4	20.7
製造業	20.4	14.8	32.5	52.5	57.1	51.1	43.1	38.8	35.3	41.5	31.2	34.5	24.1	18.3	13.7	6.8	19.2	22.0	33.3	22.7	24.2	6.6	10.6	17.6	25.7	16.1	21.9	13.0	28.2	6.7
卸売業	16.7	24.6	25.3	40.1	49.4	44.3	51.2	50.2	41.2	25.9	29.1	37.4	29.4	27.6	13.9	21.4	23.2	18.7	26.1	13.4	15.9	10.7	19.2	18.9	18.3	6.9	17.9	24.4	30.7	18.7
小売業	46.0	46.0	41.0	36.3	46.2	38.3	38.2	31.5	38.8	35.1	29.8	31.3	28.5	29.4	27.4	23.1	33.2	47.9	36.7	27.6	18.2	3.2	7.2	18.5	20.0	30.5	36.4	21.0	43.9	20.5
運輸・倉庫業	47.5	38.6	47.4	54.0	51.7	50.0	59.6	61.8	63.2	47.4	47.5	47.2	28.1	53.1	17.1	44.2	39.3	46.2	14.8	40.0	24.1	3.6	16.0	14.3	5.9	16.7	5.7	3.2	26.7	26.6
サービス業	39.1	31.1	30.7	22.0	33.6	51.1	33.7	50.4	52.9	62.0	44.4	32.3	19.6	25.0	18.4	12.2	28.0	16.5	12.6	13.0	12.8	3.9	2.6	10.1	18.0	8.8	4.4	5.6	15.7	0.7